

季刊高尾ビジターセンターニュースレター  
「のぶすま」 2013年秋号Vol. 36  
東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成  
2013年10月13日発行  
所在地：〒193-0844東京都八王子市高尾町  
2176  
電話：042-664-7872 FAX042-662-9926  
URL：http://www2.ocn.ne.jp/~takao-vc/  
(カラー版最新号を閲覧できます)

「秋」の一言  
山登りに絶好の季節になりました！汗が引くと肌寒くなるので、脱ぎ着のしやすい恰好を！

季節のみどころ (秋のキク編)		
日当たりの良い ところに多い	暗めの林や沢沿い などに多い	
10月	アキノキリンソウ コウヤボウキ ナガバノコウヤボウキ シラヤマギク ノハラアザミ	カシワバハグマ オクモミジハグマ ガンクビソウ ノブキ アズマヤマアザミ ヤブタバコ シュウブソウ
ユウガギク メナモミ ノコンギク		
10月 ~ 11月	リュウノウギク	キッコウハグマ シロヨメナ
トネアザミ ヤクシソウ		
12月	<p>解説員坂本のいちおし</p> <p>キク科の植物の綿毛が楽しめます。ふわふわの綿毛が風に揺れる様子がステキ。</p>  <p>カシワバハグマは綿毛が飛んだあとも花のような殻が残って可愛い。 横から見ると恐竜やドラゴンの足のように見える・・・のは私だけ？</p>	

## ビジターセンター通信

### 行事報告

7月6日(土)「もうすぐ夏休み！  
高尾山で登山のファーストステップ！」  
これから山登りをしたい人のための登山入門イベント。登山の基礎知識から地図の読み方、自然の楽しみ方まで、盛りだくさんの内容で高尾登山を楽しみました。



8月4日(日)  
「夏休み自由研究 高尾山！生き物発見隊」  
小学生の親子を対象としたイベント。夏の高尾山で見られる生き物を調査しました。たくさんの種類が見つかり、生き物への興味がますます深まった一日となりました。



### これからの行事予定

12月7日(土)「高尾山でムササビに会おう」  
高尾山に棲むムササビを観察し、その生態を学ぶ。  
応募締切11月13日(消印有効)

往復はがきやEメールでの応募となります。詳細はホームページ、またはお電話でご確認ください。

# 高尾山の秋の花たち



秋は花を楽しむことができる季節。いろいろな花があるなあ・・・  
と思いきや、実はこの花たち  
ぜんぶ「キク科」の植物なんです。

キク科は1科だけで  
**なんと130種**

「科」とは植物の分け方の一つで、「キク科」とは、簡単に言えば「キクの仲間」のことです。高尾には136科、約1300種の植物が生えています。その中で、キクの仲間は一つの科だけで130種類と、全体の約一割を占めています。

136科  
約1300種

高尾山の植物

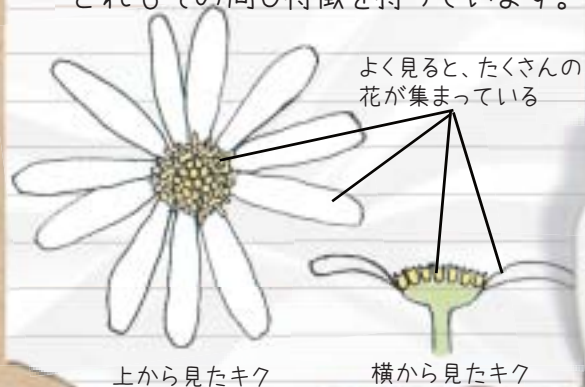
# キク科の植物の工夫

高尾山の花の約1割を占めるキク科の花。キク科の植物が、他の植物とくらべてこんなに多いのはなぜなのでしょう？

## キク科の花ってここがスゴイ!!

### キク科の花の特徴

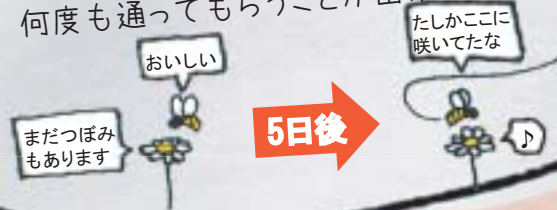
一つの花に見える部分(花序)がたくさん小さな花(小花)で構成されています。表紙のイラストの花たちは、どれもその同じ特徴を持っています。



虫が蜜を吸いに来た時に、一度にたくさんの花の花粉を持って行ってもらうことができます。



たくさん的小花が少しづつ咲くので、花としての寿命が長く、虫に花の場所を覚えてもらって、何度も通ってもらうことができます。



## キク科のタネってここがスゴイ!!

キク科の植物にはタネを遠くに運ぶ方法にも工夫があります。

### ①風に乗って運んでもらう

キク科の植物には、タンポポのように、綿毛でタネを飛ばすものがあります。

高尾では...

ほとんどのキク科の植物が綿毛でタネを飛ばします。



### ②動物にくっついて運んでもらう

動物の毛にくっつくタネを作るものもあります。



キク科の植物は、たくさん的小花が集まったことで、一つ一つの花が「がく」を持つ必要がなくなりました。「がく」になるはずだった部分を綿毛に作り替えたことで、タネを遠くに飛ばすことができるようになったのです。

タネに「カギ」がついていて動物の体に引っかかるようになってるものや、

高尾では...

コセンダングサ  
アメリカセンダングサ

粘着性のある粘液でペタリとくっつくものがあります。

高尾では...

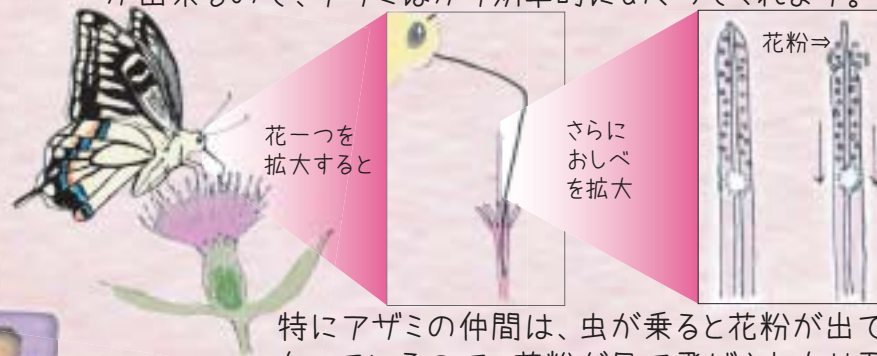
ヤブタバコ  
ガンクビソウ  
メナモミ  
など



## タイプ別に見る！キク科の形の工夫

### アザミタイプ

小花がすべて長いストローのような形になっているので、チョウや舌の長いハナバチなど一部の虫しか蜜を吸えません。チョウやハナバチは他の虫に取られずたくさんの蜜を吸うことが出来るので、アザミばかり効率的にめぐってくれます。



特にアザミの仲間は、虫が乗ると花粉が出てくるようになっていて、花粉が風で飛ばされたり雨に流れたりして無駄になりにくいようです。

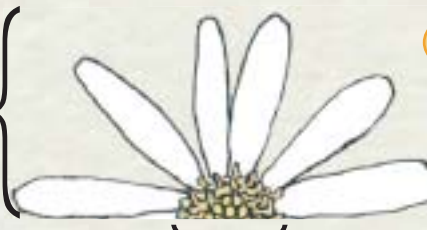
高尾では...

ノハラアザミ  
アズマヤマアザミ  
トネアザミ  
カシワバハグマ  
オクモジハグマ  
コウヤボウキ  
などなど

### ノギクタイプ

花びらのように見える部分も実は一枚一枚がそれぞれお花。集まった花で、役割分担しています。

周りの白い花たちは、虫に来てもらうための広告塔。種類によってはおしべ・めしべを持たず、タネをつけないことも。



真ん中の花達は目立つ花びらをもちません。花粉を虫に持っていったらいい、タネをつける担当です。

高尾では...

ノコンギク  
アキノキリンソウ  
シロヨメナ  
シラヤマギク  
ヒメジョオン  
センボンヤリ  
などなど

### 他にも...

ノギクのように役割分担せず、それぞれの花が1枚ずつの花びらを持ち寄って花ができていくタンポポタイプ

高尾では...

ニガナ アキノゲシ ジシバリ  
ヤクシソウ コウゾリナ などなど

虫に運んでもらうことをやめ、風で花粉を運んでもらうことにしたヨモギタイプ

高尾では...

ヤマヨモギ など

こうした工夫でいろいろな場所に進出することに成功したキク科の植物は高尾山でも1年を通して人の目を楽しませてくれます。その中でも秋はたくさんのキク科の植物を目にすることができる季節。ぜひ高尾山でキク科の植物を観察してみてくださいね。

